

分別で地球をきれいに



池田部長(左)から下敷きを受け取った児童ら＝北名古屋市の西春小で

児童にリサイクル下敷き

北名古屋市の「ミナミ産業」寄贈

ごみの回収などを手がける北名古屋市の「ミナミ産

業」が二十五日、西春小学校を訪れ、ペットボトルをリサイクルして作った下敷き九十枚を子どもたちにプレゼントした。

寄付は毎年続けており、今回が十六回目。子どもたちに環境への意識を高めてもらおうと、市内十校の四年生全員に渡してきた。今年には計八百二十枚を贈った。

西春小では寄贈式が行われ、ミナミ産業の社員たち

池田部長から緑色の下敷きを受け取る児童＝岩倉市曾野小で



が児童に下敷きを手渡した。下敷きは緑色の透明なタイプで、赤い物に重ねると消えて見える。社員たちが赤色のパッケージなどを下敷きで覆い実演してみせると、子どもたちは「すごい」「最高」と声を上げた。代表であいさつした児童は「すてきな下敷きをありがとうございます」と感謝した。久保千聡校長は「資源や分別の大切さなど、子どもたちにとってすごく勉強になると思う」と話した。

同社総務部の池田暁部長は「ペットボトルもきちんと分別すれば、新しく生まれ変わるということを子どもたちに感じてほしい。これからも寄付を続けていきたい」と語った。

下敷きのほか、環境学習ができる子ども向けのワークシートもプレゼントした。

同社は岩倉市の小学四年生にも毎年、リサイクル下敷きを寄付している。今年には計四百十五枚を市内五校に贈った。二十六日に池田部長が曾野小を訪れ、代表の児童に手渡した。

(猿渡健留、小中寿美)